

明治大学教育会研究大会 分科会概要

第1分科会 子どもが劇的に変わる学校メンタルトレーニングⅡ —予防・治療・開発まで

岩佐繁樹 先生（千葉県立茂原高等学校）

〔発表概要〕

- I 学年集会でのストレスマネジメント教育の実践事例
- II 教育相談としての治療事例
 - ・過呼吸から不登校になった生徒への対応
 - ・対人恐怖症を克服した事例
- III スポーツメンタルトレーニング
 - ・打倒！剛速球投手 県立高校野球部の事例簡単なメンタルトレーニングの実技指導を行います。例) 体内時計の調節等

第2分科会 社会科における思考力・判断力・表現力を育む指導と評価の工夫 木内貴士 先生（清瀬市立清瀬中学校）

〔発表概要〕

私は中学校の社会科教員をしており、接する生徒たちの学力を伸ばしたいと、日々の授業に取り組んでいます。その授業においては、現行の学習指導要領、とりわけ①「基礎的・基本的な知識、概念や技能の習得」②「言語活動の充実」をふまえた組み立てに努めています。しかし、課題もまた多くあります。①と②をどのように計画して「指導」していくべきか。その「指導」と、そこから生ずる「評価」をどのようにとらえ、実施していくべきか。そうして工夫しながら伸ばすべき学力のうち、とくに「思考・判断・表現」の力について、どのような方策をとればより一層効果が上がるのか。

実は、このような課題は私だけでなく、多くの教員もまた同様に抱えていることが分かりました。そこで私が所属した東京都教育研究員の仲間と協力して研究を進め、方策や工夫の一端を見いだしました。この分科会ではその研究成果を中心にお話しします。

第3分科会 教員時代におけるさまざまな学校づくりの取り組み その成功と挫折 —教職を目指す若者に夢を持って頂くために—

鈴木将大 先生（品川区立小中一貫校八潮学園）

〔発表概要〕

- 1 いま求められている力とは
 - ・キーコンピテンシー
 - ・人間力
 - ・生きる力
 - など
- 2 学力って何だ
 - ・法令から
 - ・評価から
- 3 学力向上に向けて
 - ・授業構成要素の押さえ

第4分科会 困難を抱えた生徒と向き合う

—埼玉県定時制高校自立支援プログラムにおけるスクールソーシャルワーカーの実践—

瀧澤雪子 先生

(埼玉県立所沢高等学校 定時制課程 スクールソーシャルワーカー)

[発表概要]

文部科学省は平成20年度より「スクールソーシャルワーカー活用事業」を開始した。埼玉県では、平成21年度8市町に21人を配置したのを皮切りに、平成24年度からは中退率の増加が問題となっている県内の定時制高校2校に「埼玉県定時制高校生自立支援プログラム」の一環として2名のスクールソーシャルワーカーを配置した。平成26年度からは「課題を抱えた生徒の自立を支援する共助プラン」として、定時制高校24校に8名のスクールソーシャルワーカーが新たに配置されている。

発表者は被虐待児の緊急避難場所を運営する「社会福祉法人カリヨン子どもセンター」において被虐待児や非行少年の支援に携わってきた。スクールソーシャルワーカーとして学校に配置された福祉の専門職の目から見えてきた問題点①子どもを中心に据えた支援の在り方が、学校現場で求められているか否か②学校内のチーム体制構築の在り方③高校における他機関連携の難しさ④不登校の受け皿としての定時制高校の在り方等について、「権利擁護」に視点に置いた実践について事例を通して発表する。

第5分科会 生徒から信頼される教師目指して(3ヶ月間の担任生活を通して)

篠崎保夫 先生 (千葉県立君津商業高等学校)

[発表概要]

- ・高校3年生で卒業まで後3か月の時に、飲酒運転による突然の担任降板。その後任となり動揺する生徒達とどう関わり、彼らの不安、教師に対する不信を和らげ3月の卒業式を迎えたのかを語る。
クラス内の指導が難しいと言われる生徒との関わり、そしてその親との関わりも話題にする。
- ・飲酒に関わる注意を喚起する。
- ・今回の卒業式事務で、コンピュータを過信する事で起きた事件も扱う。具体的には、呼名簿からの生徒氏名の欠落、成績証明書の成績の誤印刷など(分科会では時間が許せば取り扱う)。

第6分科会 協同活動の実践

—中学3年生「高瀬舟」と高校2年生「大鏡」を読む

沖 奈保子 先生 (東京都立両国高等学校)

[発表概要]

現行の指導要領において、言語活動は必ず行われる重要な指導事項になっている。

それに伴い、「ジグソー法」や『学び合い』など協同活動型の授業が教育現場では多く取り入れられている。私たち自身が学生の頃に体験してきた講義型授業の転換期を迎えているのだ。

私は、今年で教員13年目になるが、3年前に、講義型授業から協同学習型の授業にスタイルを変えた。その契機と、実践例、実践を通じて学んだことを発表し、問題点について、みなさんと共に考えていきたいと思う。

具体的には、中学3年生光村図書の教材（「高瀬舟」他）、高校2年生「大鏡」「歌物語」について の実践例をとりあげ、活動の目標、ねらい、評価について、考えていく。

第7分科会 子ども若者たちの孤立と貧困に対し、教育はどのような役割を果たせるか

青砥 恭 先生（明治大学文学部）

〔発表概要〕

子どもの貧困15, 7%と日本の子ども・若者たちは安心して育つ環境が失われつつある。教育制度と学校は、子どもたちが安心して育ち、市民社会に参加できる条件を作ることができているのか。不登校、高校中退、通信制・定時制の高校生、障害で生きづらさを感じている子ども、外国にルーツがある若者などに、「居場所」（たまり場）と「学び場」（学習支援教室）を提供し、そこに大学生など若い世代も関わって活動している「さいたまユースサポートネット」（<http://www.saitamayouthnet.org/>）の経験を紹介しながら、実態を検証する。

第8分科会 自主性・自己表現力を育てる日々の生徒指導(高等学校)

服部直孝 先生（杉並学院中学高等学校）

〔発表概要〕

高校生になると、自主性がありそれまでの学校経験の中で自治活動のリーダーを経験してきた生徒と、そのような経験をほとんどしていない生徒に分かれるように感じる。

前者の生徒はその経験を繰り返すことで表現力や問題解決力を身につけ、後者の生徒は経験がないままなのでひどく「言葉足らず」でコミュニケーション力に欠ける姿を目にする。

後者の生徒たちやそれに準ずる普通の生徒たちも、教員のアプローチの仕方次第で、表現力や自主性を獲得することができるのではないかと、試行錯誤している。

生徒の自主性を引き出し、自己表現力を育てるために、日々のクラス指導や行事指導・生徒会指導で、私が留意し実践している項目をお話しし、現職の先生方や教職を目指す学生の皆さんと意見やアイデアを出し合ってゆきたい

第9分科会 高等学校物理における科学的な見方や考え方を育成する問題解決型の学習の在り方ー自己評価と相互評価を機能させた指導システムの実践ー

石川真理代 先生（東京都立戸山高等学校）

〔発表概要〕

中央教育審議会答申（平成20年1月）では、理科に関する課題を踏まえ、子供たちが知的な好奇心や探究心をもって、自然に親しみ、目的意識をもって観察・実験を行うことにより科学的な見方や考え方を養うことができるよう改善を図る必要があるとしている。本研究では問題解決型の学習における自己評価とグループワークによる相互評価を通して、科学的な見方や考え方を育成する

ための指導の在り方を追究することとし、実践を通して検証をした。

なお、本研究では、私が平成25年度東京都教員研究生として行った研究主題『高等学校物理における科学的な見方や考え方を育成する問題解決型の授業の在り方ー自己評価と相互評価を機能させた指導システムの構築ー』と今年度の実践を合わせて報告する。(参加上限40名)

第10分科会 授業づくりにおける様々な課題 ～10テーマ～

近藤大典 先生 (開智中学高等学校)

[発表概要]

授業づくりには様々な課題があり、教師に与えられた環境や条件も多岐にわたる。教師が授業づくりでどのような課題と取り組んでいるのか、発表者は現任校を含めて様々なタイプの8校で複数の社会科科目を受け持った。そこから得た課題も踏まえて、具体的な議題を提示し、討議のたたき台となる取り組み例を挙げたい。発表者は社会科だが、社会科以外の教科の方にもぜひ討議に参加していただきたい。

<議題>

- ・学校に応じた教育内容の選定 (進学校、中堅学力校、教育困難校、男子校と女子高、公立と私立、中高一貫校、地域性)
- ・ノート内容 「板書中心型」と「プリント中心型」
- ・教科書準拠型授業とテーマ的授業
- ・「講義型授業」と「生徒参加型授業」の取り組み (学び合いの工夫)
- ・教材収集と授業での提示 (専門書、新聞記事、録画ビデオ、インターネット、写真、実物教材、授業道具の収集)
- ・授業における「話し方」の工夫 (発声、間の取り方、生徒の質問対応、アドリブ、雑談など)
- ・定期試験づくりの課題 (語句問題、正誤問題、論述問題、資料(史料)読み解き問題)
- ・他教員と共同して同一の授業に取り組む場合の課題 (授業進度、教育内容、定期試験づくり、授業方法、教材の選定など)
- ・教員の「専門科目以外も受け持つ学校」と「専門科目特価制の学校」の効果と課題
- ・校務分掌、部活顧問、担任などの業務を担う中で授業づくりに取り組む時間

第11分科会 へき地教育の現状と課題

松田孝一 先生 (稚内市立富磯小学校)

[発表概要]

「へき地教育の現状と課題」～北海道宗谷管内のへき地教育を事例として～

◎へき地・小規模・複式学級を有する学校の現状と課題

◎学校間の連携・接続

◎教職員の資質・能力の向上

※ この機会に自らの学校経営を振り返り、さらに、教職を目指す明治大学の学生に教育現場の現状と課題を学んでもらえればと思っています。

以上